



# 酪農学園大学における 産業動物臨床実習の概要 (+参加型実習に向けて)



# 産業動物臨床実習(4年前期～5年前期)

2班編成・1班70名・隔週・実習畜10頭

| 実習(単位数)       | 実施年次 | 担当教室(教員2名) |
|---------------|------|------------|
| 生産動物内科学実習A(1) | 4年前  | 生産動物内科学 I  |
| 生産動物内科学実習B(1) | 4年前  | 生産動物内科学 II |
| 生産動物外科学実習(1)  | 4年後  | 生産動物外科学    |
| 動物生殖学実習(1)    | 4年前  | 動物生殖学      |
| 予防衛生実習D(1)    | 5年前  | ハードヘルス学    |

実習30時間 × 5 = 150時間

講義(必修)30時間 × 5 = 150時間

講義(選択)15時間 × 4 = 60時間

# カフェテリア方式 (集団見学型)の実習



# 見学型実習の補完



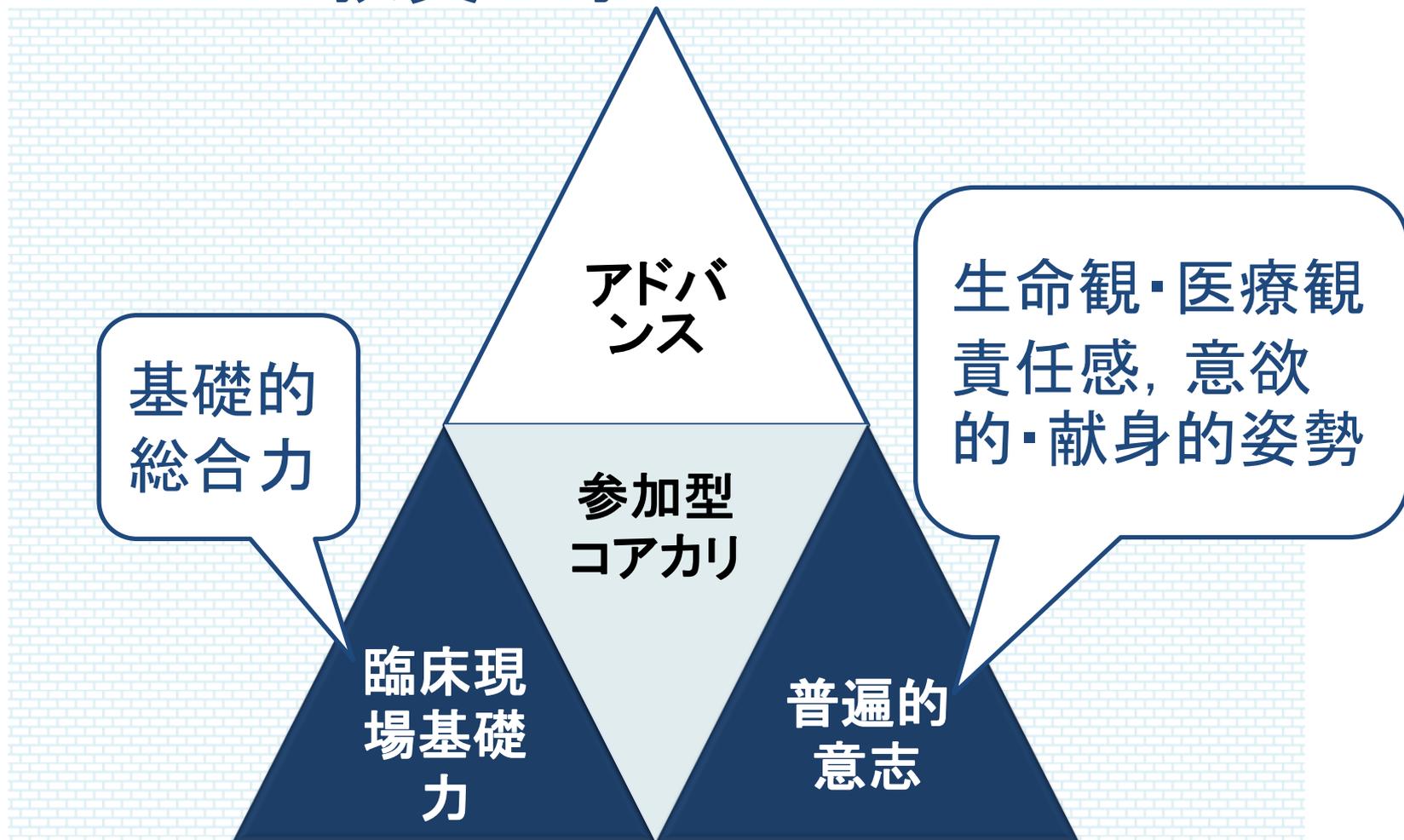


# 教室活動(参加型実習)→アドバンス (入院動物の診療:毎日AM 7:00~)



# 参加型実習以前の問題

## 教員—学生ストレス

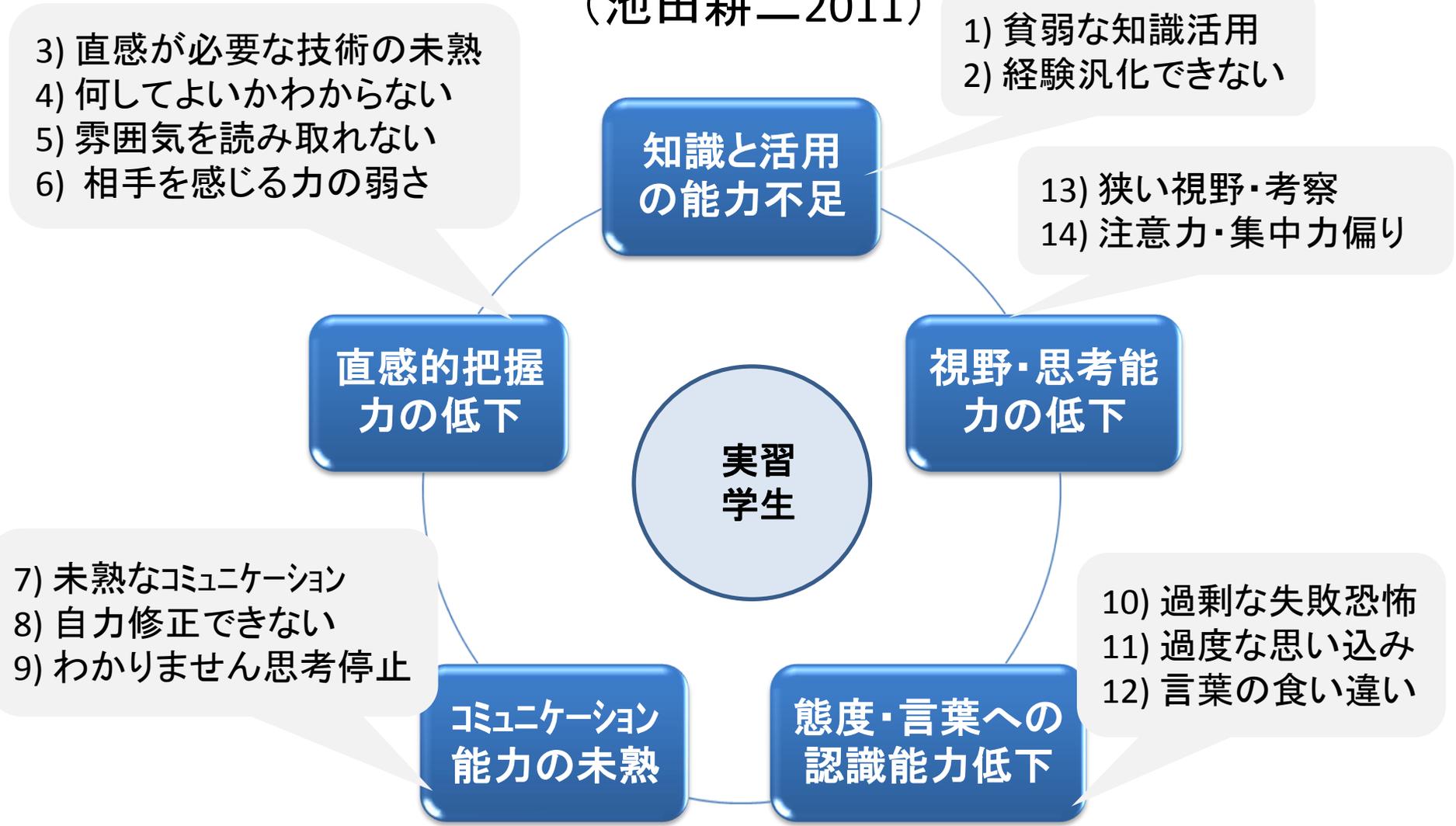


# 臨床現場基礎力

- ☆現場で畜主や担当獣医師と上手に関係構築を行い、知識や技術が未熟であったとしても、助言や手助けを受けながら、現場で獣医療を誠実に実践できる能力
- ☆たとえ新人であってもできなければならないもの

# 臨床現場基礎力欠如の問題構造

(池田耕二2011)



# 参加型実習の問題

状況・目的

活用法・  
効果・限界

大学教員—現場獣医師—学生

臨床現場  
基礎力

問題解決  
研究視点

方便(手段)

臨床実習  
法研究

